



4. 下地処理、付着力に関する事項

Q4-1：防錆塗料の有無、種類によって付着力に差があるのですか？

A：1. 防錆塗料について

現在最も一般的に普及している防錆塗料は、JIS K 5621(一般さび止めペイント)をはじめとする JIS 製品のさび止めです。

これらの物の多くが、アルキド樹脂をビヒクルとして使用しており、加える防錆顔料の種類によって種別化されたものです。

2. 吹付けロックウールとの付着性について

現在一般に普及している防錆塗料は、JIS K 5621(一般さび止めペイント)、JIS K 5674(鉛、クロムフリーさび止めペイント)等です。

しかし、半乾式吹付けロックウールのようなセメントをベースとした材料を吹付ける場合、基本的に防錆塗料の使用は避けるべきです。

施工時の条件や、施工時の建物の環境条件等により防錆塗料の使用が必要な場合は、必要に応じてプライマー等の付着力増強対策をご検討ください。

Q4-2：吹付けロックウールを施工する際の下地処理の方法は？

吹付け下地の接着剤にはどのような種類があるのですか？

A：コンクリート、セメントモルタル、コンクリートブロック等セメント製品を下地とする場合は十分な水湿しを行ない、ドライアウト防止を図ります。

また、ALC パネルや剥離剤が塗られた PC 板を下地とする場合には合成樹脂エマルジョンシーラーを用いて下地調整を行ないます。

一般的には、アクリル樹脂系エマルジョンや酢酸ビニル・アクリル共重合樹脂エマルジョンなどを使用します。

参考文献

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修：平成 25 年版 建築工事監理指針(一般社団法人 公共建築協会：刊)